



平戸市 夜間景観ガイドライン (案)

令和6年7月

平戸市

目次

第1章 はじめに

- 1-1. 平戸市における夜間景観へのとりくみの背景 1
- 1-2. 夜間景観ガイドラインの目的と対象エリア 2
- 1-3. 都市照明に求められるあかりの品質と照明計画のポイント 3

第2章 夜間景観形成のガイドライン

- 2-1. 公共空間の照明ガイドライン 4~9
- 2-2. 民間の照明ガイドライン 10~13
- 2-3. あかりの演出ノウハウ集 14~16
- 2-4. 色彩照明に関するガイドライン 17~18
- 2-5. あかりのイベントの夜間景観における技術指針 19

第1章 はじめに

1-1. 平戸市における夜間景観へのとりくみの背景

1. 都市照明の基本的な考え方

人々のライフスタイルの変化などにより、今日では日没後の良好な景観形成は非常に重要となっています。ただ明るさを確保するための照明整備だけではなく、美しく風格のある都市形成や快適で健やかな住環境づくりなど、良質で場所に応じた夜間景観形成が求められています。



【ランドマークを群で活かす】



【水辺をトータルにデザイン】



【誘客する手法としての照明】



【文化財・城跡を活かす】

2. 観光地における夜間景観形成の重要性

今日の観光都市においては、宿泊や飲食などにつながる夜間景観形成やナイトエコノミーを喚起する夜間・早朝の観光施策が非常に重要となっています。

日本最古の国際貿易都市である平戸市は、歴史と豊かな自然環境に恵まれた古くからの観光都市です。本市では平戸城や平戸ザビエル記念教会など主たるランドマークのライトアップ等を実施し、夜景魅力の創出に着手していますが、「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」のための夜の魅力度アップや宿泊目的につながる「絵になる夜景」の創出はこれから取り組むべき課題ともいえます。



草津温泉
(群馬県草津市)



水木しげるロード
(鳥取県境港市)



城崎温泉
(兵庫県豊岡市)



長門湯本温泉
(山口県長門市)

3. めざすべき夜間景観とその効果

不安な場所から



樹木ライトアップは、鉛直面の明るさ感を高め、安心感を創出します。



安全安心な場所へ



暗く寂しい水辺



白い拡散光（水銀灯）だけの環境から、あたたかな間接照明で構成された環境へ更新した例。



魅力が活かされた水辺



見えないランドマーク → 誇れるランドマーク



最低限の明るさを確保する照明から、観光地にふさわしい明るさ感と美的価値を創出した例



1-2. 夜間景観ガイドラインの目的と対象エリア

1. 目的

本ガイドラインは、平戸城下旧町地区とその周辺における「夜間景観」に着目し、良好な夜間景観形成とあかりを活かしたまちづくりを官民の連携によって実施するにあたっての、あかりの整備方針や照明器具の種類、照明手法等を示すものです。

本ガイドラインを活用することによって、以下の4つの方向性をめざします。

1) 平戸らしさを活かし、市民が誇れる夜間景観を形成する

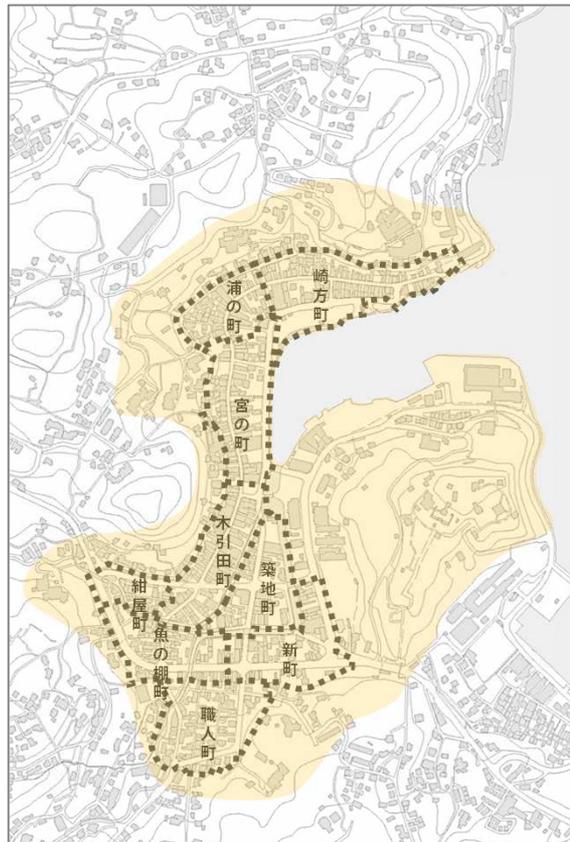
2) 市民が安全・安心に暮らせる環境を整える

3) 宿泊観光・ナイトエコノミーに寄与する絵になる夜間景観を形成する

4) 環境に配慮した照明計画の実現

2. 対象エリア

本計画の対象エリアは、おおむね市内外からの来訪者が多く、滞在観光の促進に向けてより効果が高いと思われる平戸湾を囲むエリアと平戸城下旧町地区において、2005（平成17）年度から2019（令和元）年度までの15年間、街なみ環境整備事業を実施してきた崎方町、浦の町、宮の町、木引田町、築地町、紺屋町、新町、魚の棚町、職人町及びその周辺エリアとします。



1-3. 都市照明に求められるあかりの品質と照明計画のポイント

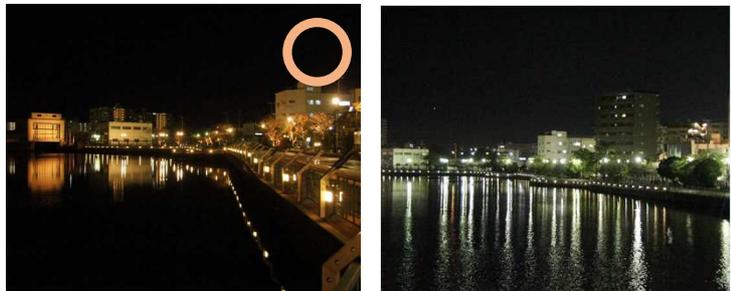
今日の都市照明においては、以下のような「あかりの品質」が求められています。

- ①あかりの色温度・・・・・・・・・・観光地・住宅地には暖かな「電球色」が最適です
- ②鉛直面の明るさ感が重要・・・・壁や樹木を照らすことは大きな明るさ感を創出します
- ③照明の配光を考える・・・・・・・・不快なまぶしさや夜空に拡散する光を抑制しましょう
- ④省エネルギー・・・・・・・・・・LED光源の利用、明るさの制御などが簡単にできます
- ⑤色彩の氾濫をふせぐ・・・・・・・・まちなみにふさわしい色彩の選択は重要です
- ⑥緑を活かす・・・・・・・・・・照らされた豊かな緑は、安全安心感をつくります
- ⑦点灯時間の管理・・・・・・・・・・時間による点灯管理は環境配慮の点で重要です

これら原則のうち、地域で良い夜間景観を実現するためには、下記の①～③の3つが特に重要です。

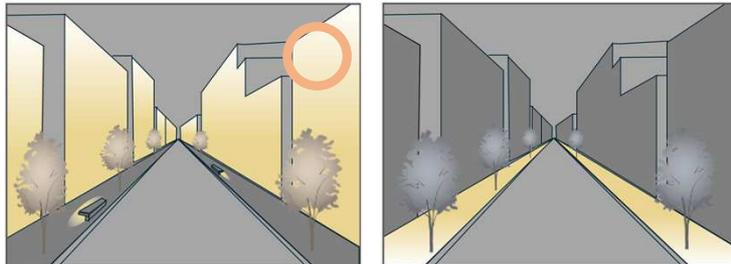
①最適な色温度

色温度とは光の色味の度合いのことをいいます。色温度が高いと白く冷たい光の色になり、低いと黄色く暖かい光の色になります。



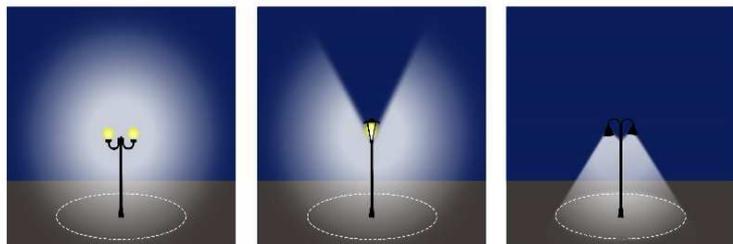
②鉛直面の輝度を重視する

同じ光の量でも、床面にあてるより、壁面にあてるほうが明るく感じます。



③グレアフリー

グレアとは、目にまぶしさを感じる不快な状態をいいます。また、グレアがあると、それより強い光しか明るく感じなくなり、その他のものは暗く見えるようになります。



まぶしく、エネルギーロスが高い

歩行に必要な十分な明るさ

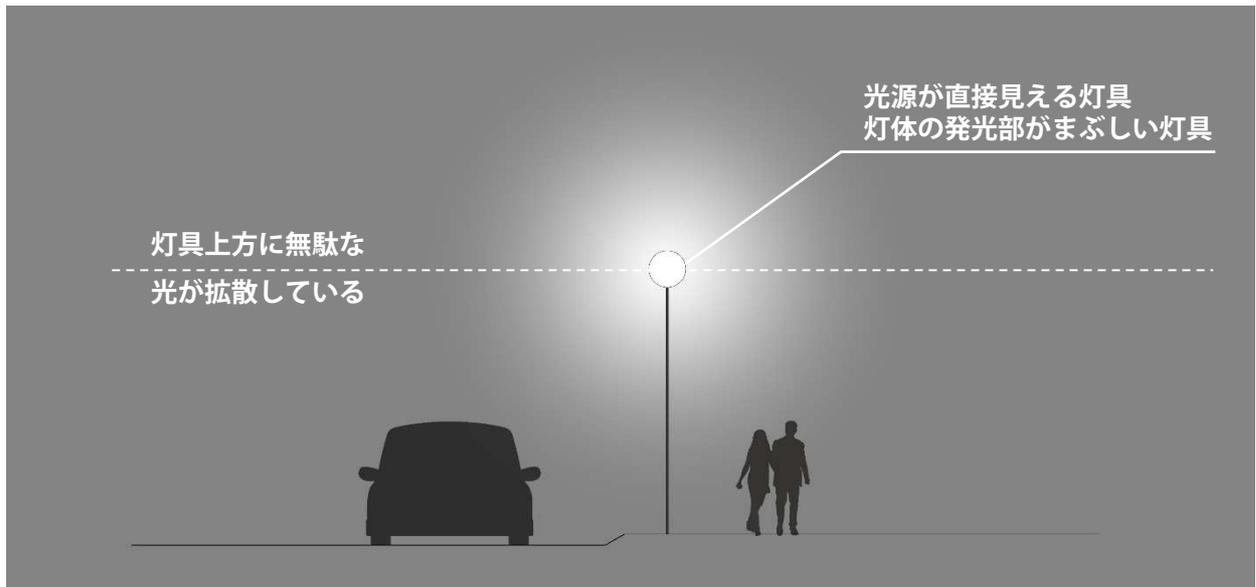
第2章 夜間景観形成のガイドライン

2-1. 公共空間の照明ガイドライン

道路・港湾・公園・広場など行政により整備される分野の照明計画に関するガイドラインです。

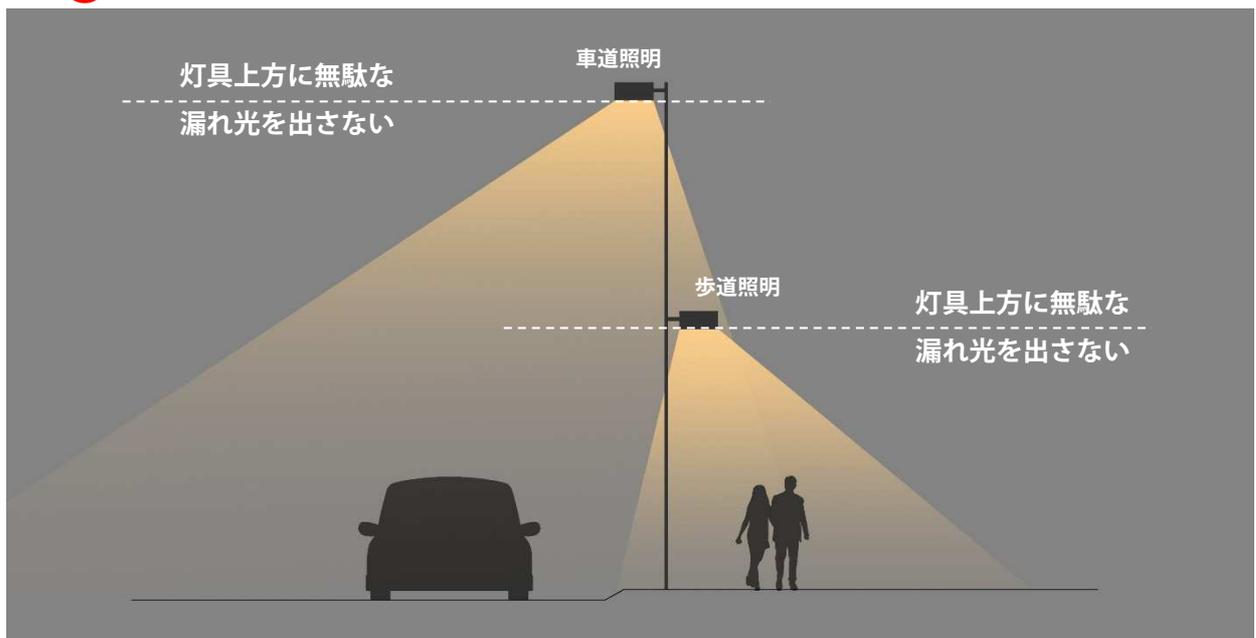
(1) 車道・歩道照明における留意事項

△ 注意が必要な例



- ・全方向に光が拡散する灯具は、発光部が大きかったり光源が直接見えるものが多く、グレア（不快なまぶしさ）を感じやすいため、このタイプの器具を使用する際は、事前にグレアの影響がないか確認を行う必要があります。
- ・この手法では無駄な光が上方に拡散し、効率よく路面を照らしません。
- ・伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、周辺の落ち着いたきのあるあかりに対し白色の光は調和しにくいとされています。

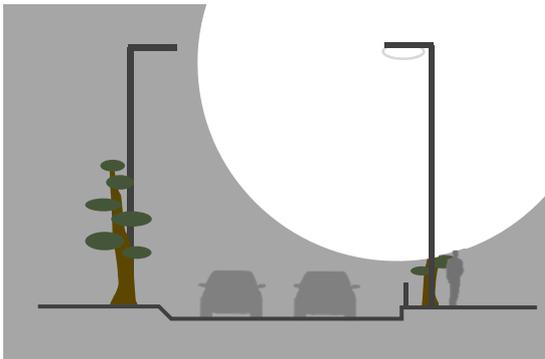
○ 良い例



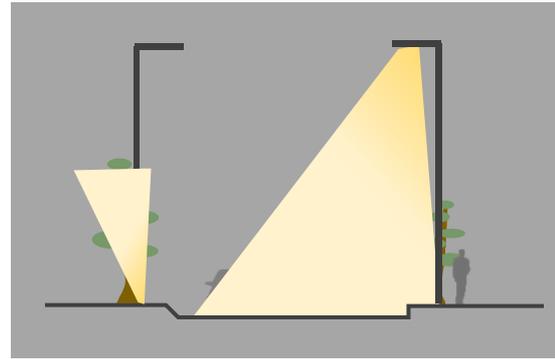
- ・上方に無駄な光を拡散させない灯具、路面を効率よく照らす灯具を採用することが望ましいです。
- ・極力グレア（不快なまぶしさ）を感じさせない灯具（下方配光型・スポットライト型等）を選ぶようにします。
- ・伝統的なまちなみや温泉地などの観光地では、色温度の低いもの（電球色）が落ち着いたきのある景観を創出します。

(1)-1 道路照明・・・シンプルな下方配光型もしくはスポットライト型で、路面のみを照らすものを選びます。

△ 注意が必要な例



○ 良い例



◆下方配光・電球色の道路照明



・発光部が側面から見えないタイプが望ましいです。



・スポットライト型は多方向を照射できます。

(1)-2 歩道照明・・・

欧州の伝統的なスタイルの既存街路灯を維持する場合は、光源のLED化・配光の調整を実施。調光仕様ならなお良い。デザインを踏襲しない場合は、シンプルな下方配光のものを選択することも推奨します。

◆欧州クラシックスタイルの場合・・・

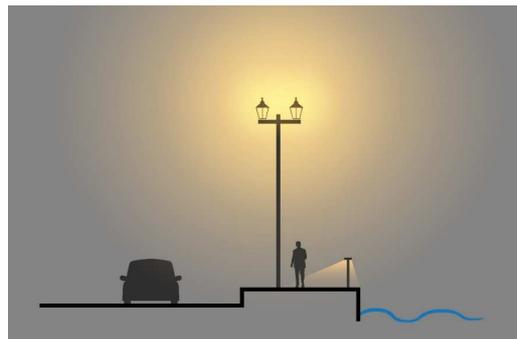
①電球色を選びましょう。

②拡散光なので、グレアが無いようにワンランク下の明るさを選択し手すり照明などで足元の明るさを高める工夫をします。

△ 注意が必要な例



○ 良い例



◆灯体を変更/更新できない場合

①遮光したい側の灯体内側に遮光版を入れ遮光する（まぶしい場合）

②色温度変換フィルター（シリコンラバーをフィルムで挟んだものなど）をランプに巻き付ける、もしくは灯具内側に貼る（電球色にしたい場合）

欧州の伝統的なスタイル



南蛮文化のルーツをもつ平戸では、他都市以上にクラシカルなイメージは重要です。シンプルな器具に比べて価格は高くなりますが、イメージを重視する場面では、本格的な欧州デザインの器具を採用することも重要です。

(2) 公園・広場・モニュメント・ボードウォークにおける照明留意事項

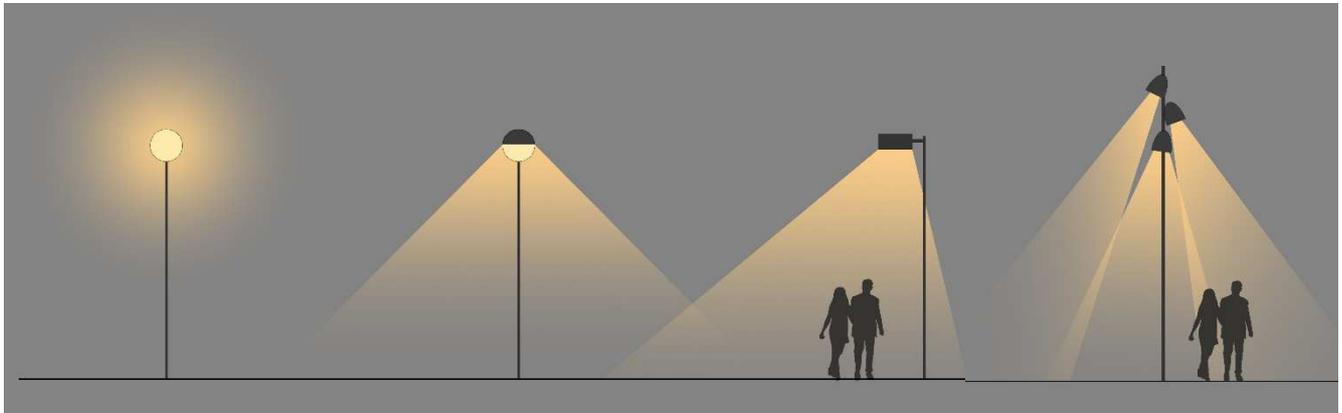
ポール照明を用いる場合

△ 注意が必要な例

○ 良い例

○ 良い例

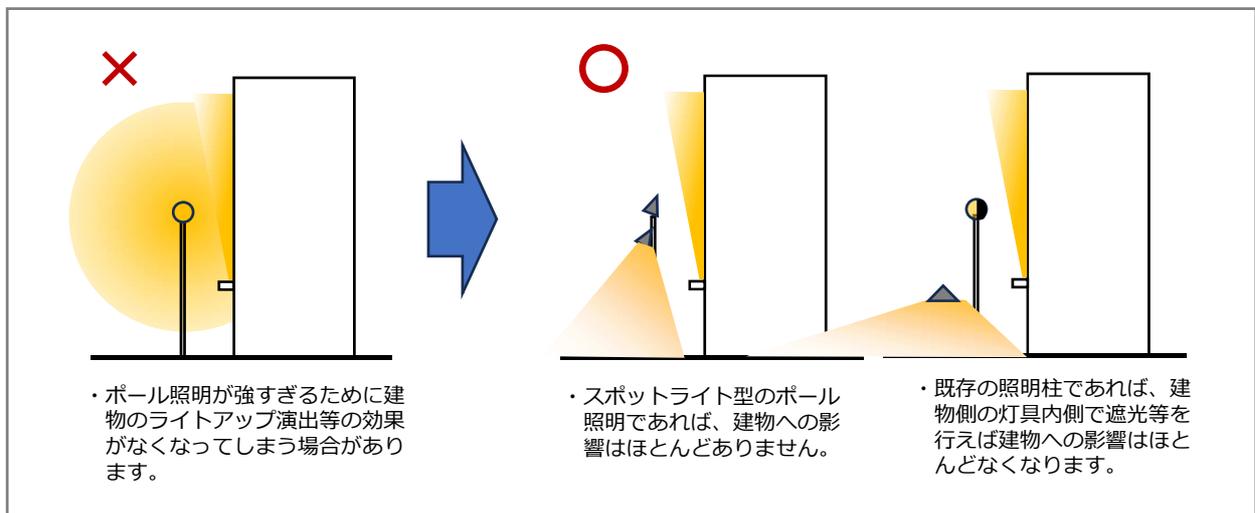
○ 良い例



- ・全方向に光が拡散する灯具はグレア（不快なまぶしさ）を感じやすく、使用する際は事前にグレアの影響がないか確認を行う必要があります。
- ・この手法では無駄な光が上方に拡散し効率よく路面を照らしません。

- ・上方に無駄な光を拡散させない灯具、路面を効率よく照らす灯具を採用することが望ましいです。
- ・スポットライト型であれば、複数の路面を照射できます。

◆建物ライトアップ等がある場合のポール照明の配光について



- ・ポール照明が強すぎるために建物のライトアップ演出等の効果がなくなってしまう場合があります。

- ・スポットライト型のポール照明であれば、建物への影響はほとんどありません。

- ・既存の照明柱であれば、建物側の灯具内側で遮光等を行えば建物への影響はほとんどなくなります。

◆下方配光・電球色の歩道照明



シンプルなポールで路面を照らすタイプ

スポットライトポール

樹木のライトアップをする場合

樹木のライトアップは基本的に「木の根元から幹に沿って照射」します。照明機材は30～40°の広角を使用するのが一般的です。また、樹種や樹形によって配灯する位置の調整が必要です。盗難などに備え公共整備ではボックス設置が一般的で、グレア対策と角度が変わらないようにガードや遮光ボックスを設置します。



大きく枝が広がっているサクラやモミジに限っては、幹を照らし上げると同時に外側から枝先方向を照らし上げることも行います。この場合は、照射方向の建物などに差し込まないように注意します。



斜めに狙うことは好ましくない。

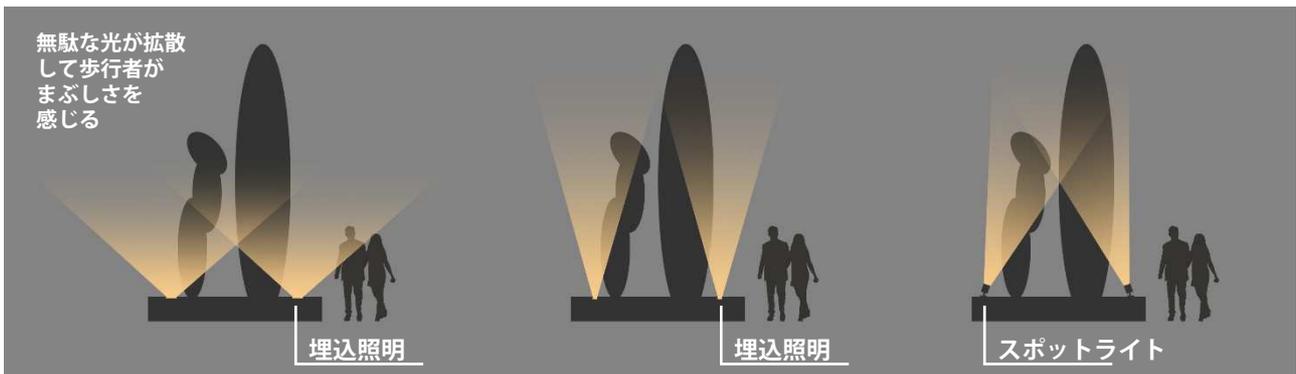
- ・歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないような設置方法を検討します。
- ・スポットライトには配光があるので適切な配光の灯具を選択します。
- ・ルーバーやフードが取り付けられるスポットライトはまぶしさを軽減できます。
- ・埋込照明を使用する場合もまぶしくないように注意します。
- ・昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ目立たせないように設置しましょう。

モニュメントなどをライトアップをする場合

△ 注意が必要な例

○ 良い例

○ 良い例



- ・歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないような設置方法を検討します。
- ・スポットライトや埋設型のバリードライトには配光（光の広がり方）があるので適切な配光の灯具を選択します。
- ・ルーバーやフードが取り付けられるスポットライトはまぶしさを軽減できます。
- ・埋込照明を使用する場合もまぶしくないように注意します。ルーバーが取り付けられるものを選びましょう。
- ・昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ目立たせないように設置しましょう。



低ポール照明（車止め照明）の場合

△ 注意が必要な例

○ 良い例

○ 良い例

○ 良い例

発光（拡散光）タイプ
低ポール灯

下方配光タイプ
低ポール灯

植栽用間接照明タイプ
低ポール

超小型低位置タイプ
低ポール灯



- ・発光タイプの低ポール灯は最も一般的な低位置照明ですが、強すぎるとグレアになってしまいます。また、点の灯りとして誘導効果はありますが、照明ばかりが視野に入るので環境演出にはなりにくい手法です。
- ・下方配光タイプは路面の明るさを小さな光源でとれるので省エネルギーにもなります。
- ・植栽を照らすタイプも上方に光がでないので、植栽や路面の印象を高める効果があります。



拡散型



間接照明型



露地行燈照明



ガーデン間接照明型



ソーラー足元灯

ベンチや手すりなどの間接照明の場合

ベンチや小壁などの間接照明

ベンチ下

地面からアッパーライト

植栽樹から
間接照明

手すり
間接照明



路面は、光源が映り込まないようにツヤの無い素材が適しています。

- ・歩行者がグレア（不快なまぶしさ）を感じないように設置方法を検討します。
- ・特にベンチなどの屋外家具の間接照明の場合は光源の地面への映り込みに注意します。光が当たる面はツヤのない面が最適です。
- ・昼間の景観に配慮し、器具をできるだけ見せないように隠します。光源が少しでも直接見ると間接照明の効果が損なわれます。



ベンチ下間接照明



ベンチアッパーライト



手すり間接照明



植栽樹ベンチ間接照明

専門用語の解説

- 照度** 物体の表面が受ける明るさ。単位はルクス (lx) 「地面の照度」「机上の照度」という使い方です。光源や照明器具の強さを表すものではありません。
- 輝度** 人が見て感じる明るさ。単位面積あたりの光源の光束量。単位はカンデラ (cd/m²)
- 色温度** 光源が発している光の色光を定量的な数値で表現する尺度。単位はケルビン (K) ろうそくの炎を2000Kという基準で見た場合の光の色合い (カラー照明とは異なる)。太陽光：15000K、PC画面：9000K、昼光色光源：5000K、電球色光源：2700K～3000K
- グレア** 光源 (及び照明器具) の発する「不快なまぶしさ」
- 光束** 光の強さ (明るさ) を表す。単位はルーメン (lm) 「光源の光束」「照明器具の光束」という使い方。
- 間接照明** 光源を隠し、対象物に照射された光だけが視野に入るような照明手法。
- 鉛直面** 視野の70～80%が鉛直面からの情報と言われており、照明設計においては壁や樹木など地面に対して垂直方向の範囲を示す。

2-2. 民間の照明ガイドライン

平戸市では、平戸城下旧町地区において、修景町屋とあかりを活かしたまちづくりを通じて地域の魅力・価値を磨くことで、新たな誘客に加え、市民の安全安心と住まう誇りの向上をめざしています。

以下のコンセプトを定め、公共の照明整備と民間の協力によって、平戸らしい魅力にあふれた夜間景観「絵になるまち平戸」の実現に向け取り組んでいます。

コンセプト

平戸らしさを磨き上げ、安全安心で誇りをもって住まうことができ
夜景が誘客の媒体となる、新たな観光・文化都市平戸をめざします

その実現に向け、「誘客できる夜景」「回遊性を高める夜景」「安全安心で住まう誇りを紡ぐ夜景」を具現化するために、以下の6項目の目標を設定します。

- ①あかりの色（色温度）・・・・・・・・・・歴史的なまちなみで情緒的な夜景をめざします
- ②あかりの点灯時間・・・・・・・・・・地域住民に配慮した点灯時間（22時まで）
- ③絵になる風景をみんなで創ろう・・・・修景町屋を磨き上げる「ほのあかり」の実施
- ④豊かなみどりを活かすルール・・・・樹木のライトアップは美しさ心地よさと安心感を創出
- ⑤まちの文化資源を磨く・・・・・・・・・・ランドマークとなる民間景観資源を照らす
- ⑥サイン・看板の照明に気を遣う・・・・上質な観光地にふさわしいデザインへ

(1) あかりの色（色温度）

まちのあかりの色は「電球色」を基本にしましょう

- ・黄色く、暖かみのある光の色を「電球色」と呼びます。
- ・観光地や住宅地には、寒々しい白色の光よりも情緒的で落ち着きのある電球色が似合います。
- ・LED 電球をはじめすべての光源に「電球色」があります。（単位はK：ケルビンで表記されています）



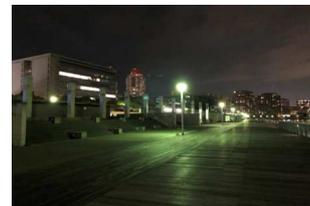
【改善事例】



情緒的な旅館街



雰囲気のある客室



心地よい港湾遊歩道

(2) あかりの点灯時間

門灯など外部のあかりやお店のあかりは、22時までを基本に点灯しましょう

- ・夜のそぞろ歩きが楽しく、暗がりのない安全安心な街並みをつくりましょう。
 - ・タイマーを付ければ、自動で点灯・消灯をすることも可能になります。
- また光源が LED の場合、従来の60W電球と同じ明るさの7W の LED 電球 1 つあたり、5 時間点灯でひと月あたり 28 円程度の電気料金です。



× 街灯、建物の漏れ光もなく歩行に不安のある道



◎ 漏れ光や山門の灯りで安心感と情緒のある通り



◎ 閉店後も二階のあかりを自動で点灯している店舗



◎ 露地行灯は、閉店後もまちなみの印象に貢献する

(3) 絵になる風景をみんなで創ろう

「ほのあかり」を灯し、誇れるまちなみを市民の力で創りましょう

- ・「ほのあかり」とは、平戸まちづくり運営協議会が主導する「町屋をライトアップする」事業です。
- ・平戸の町屋まちなみを「一度は見たい絵になる風景」として醸成し、情報発信することで誘客し地域経済の活性化をはかろうという試みです。
- ・独自に実施することも可能で、ルールは以下の通りです。

◆ほのあかり照明デザイン手法の基本スタイル (例)

光源：LED (代表的機材：LEDテープライト 2400K、露地行灯 (屋外用)、屋外用吊り照明 他)
色温度 (光の色味)：電球色 (2400K~3000K)
給電：外部コンセント差し (無い場合は協議)
電気代負担：建物所有者
点灯時間：17:00~22:00

②二階高欄てすりから軒裏を照らす
(窓形状によっては最適ではない場合もあります)

①外壁の白壁部分などを間接照明で照らします
(木製の目隠板を利用してテープライトを隠します)



③軒先吊り照明

④露地行灯

⑤1階店舗は可能な限り点灯
(電球色が望ましい)

(4) 豊かなみどりを活かすルール

道や広場に面した樹木は、できるだけライトアップしましょう

- ・昼間は癒しを与えてくれる樹木ですが、夜になると影になり暗がりをつくってしまいます。道や広場から見える庭木をライトアップすることで、安心感と心地よさをまちにもたらしめます。
- ・参道や散策路など民間敷地の緑がまちの景観をつくっている場合も多いので、わずかでも樹木のライトアップができれば、大きな安心感のある貴重なまちの風景となります。
- ・ライトアップも、暖かみのある電球色のあかりで行いましょう。



× 樹木の豊かさが伝わっていない中庭



◎ ライトアップで樹木が主役になった旅館の中庭



◎ 道に面した樹木ライトアップは地域の安全安心に貢献



◎ 神社仏閣の山門や樹林はすばらしいランドマーク

(5) まちの文化資源を磨く

歴史的な建造物や庭園・神社仏閣はまちの誇りです

- ・市内に点在する由緒ある寺社仏閣、マキの並木やソテツ、街の中に多く見られる石積や橋などは平戸ならではの大切な景観資源です。
- ・これらのシンボルの演出やランドマーク（目印や象徴となるもの）のライトアップによって、今まで以上にまちの記憶を大切に、行ってみたい・住みたい平戸に育てていきましょう。



民間施設である神社仏閣のライトアップを、水害からの復興まちづくりとして広域連携で実施している例（熊本県）

(6) サイン・看板の照明に気を遣う

下記のような看板は、できるだけ改善しましょう

「眩しすぎる」「派手な色彩」「速い速度で動く・点滅する」「大きな音がでる」

- ・白すぎる内照式の看板は、落ち着いた観光地には適していない場合があります。既存の看板がある場合は眩しさが夜間景観阻害の原因となる場合もあるのでランプ替えなどのタイミングで電球色に変えましょう。
- ・切文字（箱文字）型のバックライト文字や、外から照らす板状の看板は、上質な印象や和風のまちなみをつくりません。
- ・提灯や行灯のような和風のもの、クラシカルなアイアンワーク（南蛮風）は情緒があるため、推奨されます。



動くサイネージはなるべく避けましょう



原色の内照看板が適していない観光地もあります。



木製の看板を照らすタイプは落ち着いた印象があります。



内照でも文字のみが光るものやバックライトのものは落ち着いた美しさがあります。

参考) ホテルや商業施設に適した上質な照明手法の事例

① 漏れ光を活かす

窓あかりの色温度はエリア全体の印象に影響



② 建物外壁への間接照明

施設のランドマーク化・上質化



③ 樹木ライトアップ

幹の明るさによる安心感の確保



④ 屋外用置き型照明

外部空間を心地よくする装置



⑤ 水中照明

プールや足湯など水辺の演出



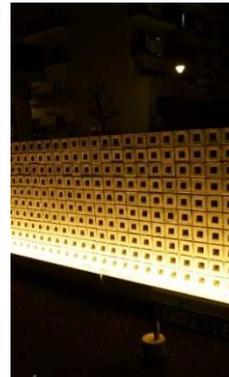
⑥ 手すり・ベンチ下間接照明

足元の路面に明るさを確保



⑦ 小壁・壁面間接照明

鉛直面の明るさを確保

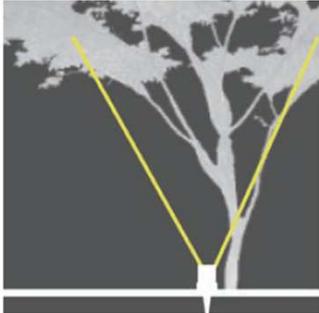


2-3. あかりの演出ノウハウ集

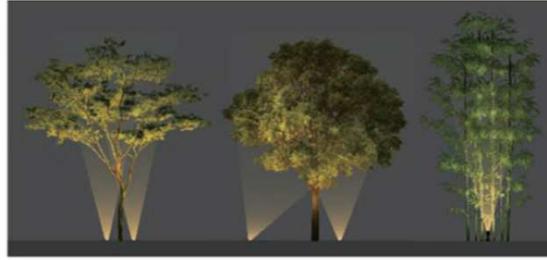
素敵な夜間景観は、公共照明だけではなく店舗や宿泊施設、住宅などまちを構成するすべての要素が創り出す風景です。以下に簡単なあかりづくりのコツをまとめてみました。照明器具の光源を選ぶ基本は「LED」「電球色」です。

【樹木や花壇の演出】

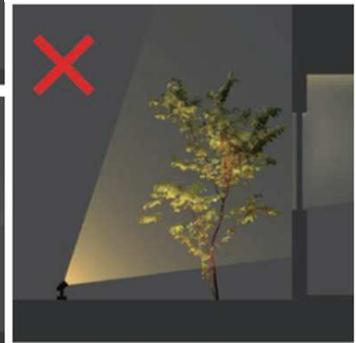
樹木のライトアップは、幹にできるだけ近い位置で真下から真上に向かって照らします。歩行時にまぶしくないように設置し、付近の建物の窓に光が差し込まないように注意しましょう。



樹木のライトアップは、スパイク式のスポットライトを使えば、自由に地面にさして使えるので、簡単に調整ができます。

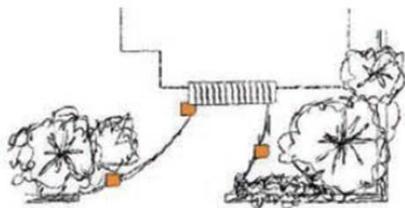


樹形によっては照らし方にコツがあります。大きく枝が広がった樹形の場合は、複数のスポットライトで照らすのが良いでしょう。斜めに照射する場合は、窓などに光が差し込まないように注意しましょう。

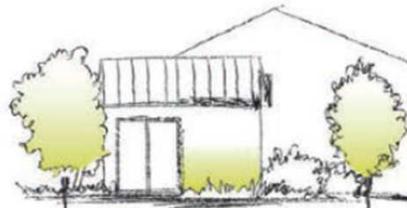


住宅や店舗のファサード（建物の表側・正面部分）であれば、LED10~15W、明るさは500~1000ルーメン程度が目安です。光源の配光角度は、樹木であれば「広角（40°程度）」が目安です。

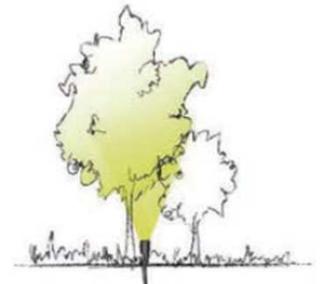
【旅館やホテル、飲食店に有効な建物正面の演出手法】



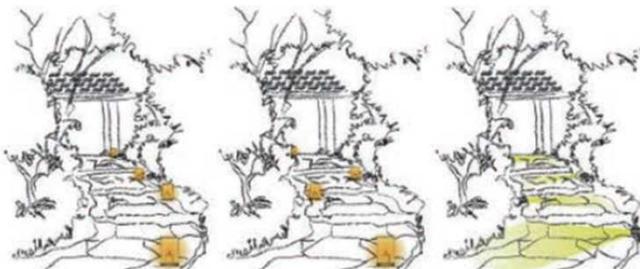
エントランスアプローチを印象的にするには行灯や低ボール灯が有効です。



玄関前に樹木がある場合は、ライトアップをやってみましょう。



スポットライトは、樹木の真下から真上に向かって照射します。窓に差し込まないように注意しましょう。



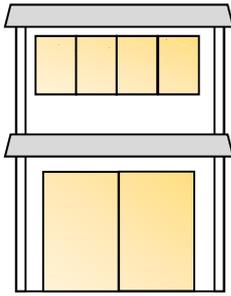
行灯は置き方によって印象が変わります。園路に沿って同じ側に置くとモダンな印象に、交互にずらして置くと和風らしさが際立ちます。スポットライトで道を照らす方法もあります。



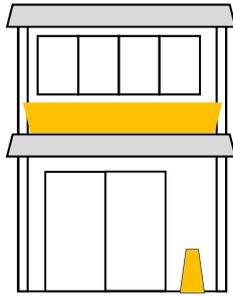
入口袖に長い壁や生け垣がある場合などは、行灯や低ボール灯を連灯すると安全安心感が高まります。

【町屋入り口の演出】

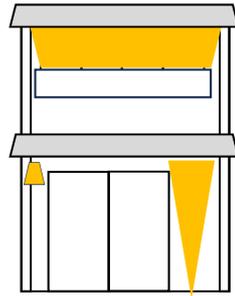
間口のデザインや軒や庇の形状によって、様々な演出が可能です。



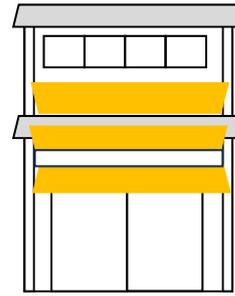
窓の漏れ光は最も大切なまちなみのあかりです。できれば電球色を使いましょう。



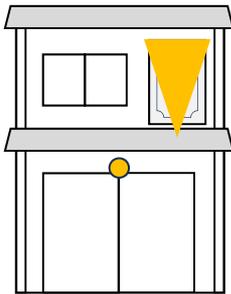
しっくい壁などを引き立てる間接照明。行灯はまちなみをつくります。



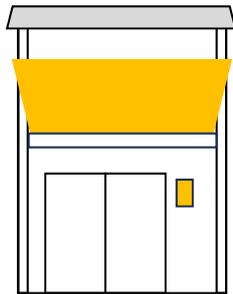
手すりを利用した軒裏への間接照明。吊り灯笼や袖壁のライトアップも有効です。



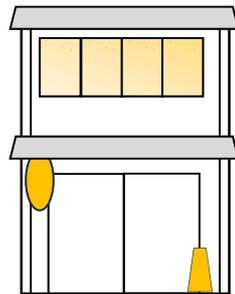
壁が広い場合は特にライトアップが映えます。化粧棧を利用した間接照明も効果的です。



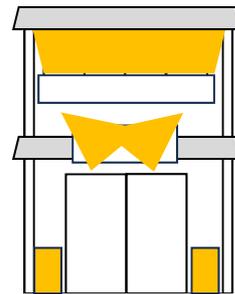
入口の上部に直付け灯をつけると玄関が協調できます。鍍仕上げの壁銘板のライトアップもおすすです。



胴縁を利用した間接照明は壁の印象を引き立てます。入口袖には直付け灯などで店の個性をだします。



提灯や行灯を駆使した店舗演出は王道です。二階の窓あかりの漏れ光も大切です。



木製の屋号看板は投光タイプの演出がおすすめです。大きな角型行灯を両袖において個性をだすこともおすすめです。

【まちなみをつくる民間照明手法の事例】



連続する白壁や軒裏のライトアップは通りの品格を高めます。グラウンドレベルに壁を照らし上げるライン状の照明器具を配置し演出します。



蔵や石垣の素材感が風情ある風景を創ります。広角の大型投光器を地面に配置してアッパーライトとして投光します。機材を見えないように。



門構えはまちなみに大きな印象をつくります。壁を照らす工夫が重要です。門から見える奥の方が明るい入りたく効果があります。



連続する行灯はまちなみに貢献します。地域でおそろいの行灯をつくるのも良いでしょう。



オープンカフェのあかりはまちなみに貢献します。テーブルの上には、キャンドルや充電式のテーブルランプを使います。



エントランスの壁や植栽の印象は大切です。行灯のあかりには誘導効果もあります。

【電気工事無しで屋外のあかりを設置する】

あかりの設置は屋外にコンセントがあれば簡単です。防水プラグのタイプであれば、延長コードで分岐も可能です。光源は、現在ではほとんどがLEDなので安心です。電球色を使いましょう。



屋外用コンセント
このコンセントであれば
防水プラグでなくても
差し込めます。



防水プラグ
この形のプラグであれば、延長コードを遠くまで
伸ばすことができます。



屋外用延長コード
この形の延長コードであれば、庭に
そのままころがしておくことができます。

*差し込むプラグも必ず「防水型」
でなければいけません。

100V（ボルト）照明器具の例



LED電球



※防水プラグ仕様ではない照明器具は、屋外用であっても必ず防水コンセントに差し込んで使用します。プラグ部分が雨に濡れないようにしましょう。

屋外にコンセントが1つしかない場合は、一般的な100V（ボルト）仕様の照明器具では設置数が限られます。分岐コードを使って複数のあかりをつなげるか、専用の電源装置を用いたローボルトタイプの器具を使用するかのどちらかになります。

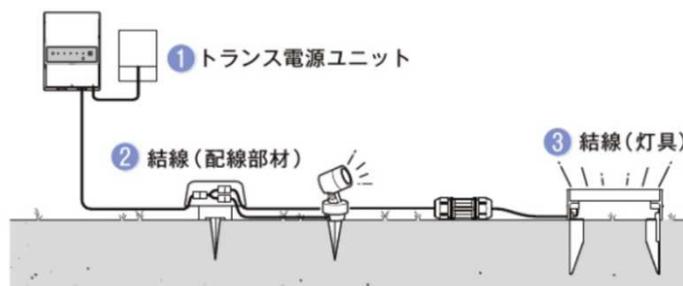
ローボルト（12Vもしくは24V）の器具シリーズは住宅用として販売されています。

ローボルトの器具を使用する場合は、屋外コンセントに「専用の電源装置」をつなぎ、その電源に照明器具のコードを接続して使用します。複数の器具を連続してつなぐことができるので便利です。

12V（ボルト）照明器具の例



プラグ付



【照明器具の購入方法】

照明器具はあまり市販されていません。堅牢で長年使える品質のものはカタログからしか購入できなかったのですが、最近ではインターネットでも様々なメーカーのものが手軽に購入できるようになりました。よく知っている電気工事店に相談するのも良いでしょう。

また、照明メーカー各社のホームページもあるので屋外用の照明器具ページで検索できます。メーカーページからは購入できないので、購入したい照明器具が決まったら、品番で検索すれば購入できるページが見つかります。

2-4. 色彩照明に関するガイドライン

豊かな歴史文化と「街なみ環境整備事業」による景観修景を長年にわたり実施してきた平戸城下旧町地区とその周辺は、ユネスコ世界遺産めぐりの拠点でもあり、落ち着いた情緒的な環境がふさわしいと考えます。

常設のあかりは「電球色」に統一しましょう



カラフルな色彩のランタンで有名なホイアン



港湾全体が柔らかな電球色のあかりで包まれるようなストックホルム

常設照明に特別なカラーを設定し、まちに活気や特別感を持たらすことは可能です。その場合は、以下のガイドラインに沿って計画することを推奨します。

- ①通常は電球色で運用しましょう
- ②年間の特別な日（自閉症啓発デーのブルーライトアップ等）に限って、特別色での演出を実施
- ③色彩選択に意味を持たない「レインボー」や動きが早すぎるカラーチェンジは行わない
- ④色彩変化や点滅は、動かす場合でも、できるだけゆっくりとした動きとしましょう

参考）福井城址石垣のカラー演出事例

通常：電球色



特別カラー例



桜色



苔色



橙色



あじさい色



白色

参考) 福井城址石垣のカラー演出設定

番号	カラー	色	備考	推奨されるシーンのイメージ
1	通常		※景観に最適な色に調整	通常のシーン用 最も日常的に使用する色彩
2	消灯			
3	苔色		※景観に最適な色に調整	通常のシーン用 電球色よりも白っぽく、笏谷石の色味を引き立てるカラー
4	不死鳥カラー		※景観に最適な色に調整	「赤」くしたい場合に使用。赤がテーマの応援時や、祭りの日など一時的に点灯するのに適している。
5	橙色		※黄味のあるだいたい色 ※景観に最適な色に調整	・9月21日 世界アルツハイマーデー ・11月1日~11月30日 オレンジリボンキャンペーン など、全国で「オレンジ」を点灯する日に。
6	桜色		※景観に最適な色に調整	・10月1日 ピンクリボンフェスティバル ・「桜まつり」時には、「13」の選択を推奨
7	白色		※景観に最適な色に調整	白い光であるが、通常は上記「1」「3」が良く、どうしても白っぽくしたい時に使用。
8	萌葱色		※景観に最適な色に調整	・「環境保護啓発」など「緑」にしたい時に使用。(城址の景観色として原色のグリーンは準備しない)
9	若草色		※景観に最適な色に調整	・5月31日 世界禁煙デー (イエローグリーン)
10	(青色)		※わかりやすい深いブルー。 ロイヤルブルー ※国際的に認知された青色	・4月2日 ライト・イット・アップ・ブルー (世界自閉症啓発デー) ※ブルー のライトアップが推奨される日は国内外で多数あるので適時利用できる色彩。 ・11月14日 ブルーサークルキャンペーン (世界糖尿病デー) ※濃いブルーのため、長期間連続は避ける。 ・拉致問題啓発
11	薄青色		※景観に最適な色に調整	・7月21日・22日 海の日 ・性同一性障害への理解 ※ブルー を長期に使用したい時に、うっすらと「青」を視認させる景観カラー。
12	あじさい色		※景観に最適な色に調整	・11月12日 パープルリボンキャンペーン ※「パープル」にしたい時に使用する景観カラー

2-5. あかりのイベントの夜間景観における技術指針

この章では、地域で「あかりイベントを華やかに開催したい」というニーズに対し、どのようにすれば華やかでかつ上質にできるのかを解説します。

ポイントは以下のとおりです。

- ①イルミネーションは手が届く高さまでの範囲なら設置がしやすく、より美しく仕上げやすいのでおすすめです。電球色もしくは単色のみに点滅無しの方が上品にまとまります。ツツジやコニファー・柘植などの低木なら、だれでも簡単に美しくあげられるので特におすすめです。

- ②高木樹木のイルミネーションは安全面から高所作業車を使って設置撤去を行いましょう。脚立での設置は安全の面からもなるべく避けて「脚立を使わない範囲で、できるイルミネーション」がおすすめです。

- ③カラーライトアップは、なるべく光を動かさずに単色で行いましょう。動かす場合は、ゆっくりとした動きがおすすめです。演出対象は、「地域の大切なもの」であることが重要です。

カラーライトアップは本来はプロに依頼するものなので、機材もプロ向けとは異なっており、廉価な市販品ではカラー設定が自由できないものが多く、景観づくりに適した上品な色彩にできない場合が見受けられます。そういった機材の場合は電球色がおすすめです。

- ④普段はライトアップしていない施設や場所に、電球色のあかりを灯すだけでも「素敵なあかりのイベント」は可能です。平戸の魅力をみんなで楽しむことができる静かで上品なライトアップイベントがおすすめです。

- ⑤サクラ祭りなどで活躍する「ぼんぼり」は、和紙風（ビニル可）＋電球色が無難です。鮮やかすぎるピンクのぼんぼりやピンクの電球は使用しないほうが無難です。

- ⑥「竹あかり」は上から見る事ができる視点場を設定しましょう。ティーライトキャンドルと呼ばれる小さなキャンドルがおすすめですが、LEDのキャンドルを使う場合は、あらかじめ明るさをチェックして、イメージ通りの効果が期待できるか確認しましょう。

- ⑦「あかりのイベント」を企画する場合は、地域で楽しむものなのか広域からの誘客を期待するものなのかを考える必要があります。広域の場合は、平戸らしさや平戸ならではの内容が重要です。



小さな花壇でも、美しく装飾できる。子供たちが製作した切り株サンタ。



高所作業車を使用して、奇麗に装飾されたイルミネーション。



歴史的な建物には、淡い色彩が似合う。



電球色のライトアップで特別なあかりのイベント。